

3歳児を持つ親の子育てと他者への信頼との関連

父親と母親の特性の違い

ホンダ ヒカル ウザミヨコ
 本田 光* 宇座美代子^{2*}

目的 関係性喪失の時代と言われる現代社会において、コミュニティーとの関係性を築く力が個人に問われている。本研究では、筆者が開発したコミュニティーにおける人々の他者への信頼を測定する尺度を使用して、3歳児を持つ親の子育てとの関連性を明らかにする。さらに他者への信頼の側面から、父親と母親における特性の違いを明らかにすることを目的とする。

方法 A市の3歳児健康診査を受診した児の保護者329件（父親134件、母親195件）を分析対象とした。調査票は自宅で記入してもらい、健診当日に回収した。他者への信頼は、「絆を築くための戦略的信頼」、「社会一般の人に対する信頼」、「特定の人に対する信頼」の3つの下位尺度で構成されている。分析は、他者への信頼の下位尺度得点を父親と母親で求め、父母の基本的属性等の影響を確認した後、ロジスティック回帰分析によって子育てに対する心理との関連を分析した。

結果 他者への信頼に対する父母の基本的属性等の影響は、父母双方においてA市内出身である場合に、「絆を築くための戦略的信頼」が高く、就業している母親は、無職の母親に比べて、「絆を築くための戦略的信頼」と「特定の人に対する信頼」が高かった。また、子どもの性別による影響は、母親において子どもが男児である場合に、女児である場合と比べて、「絆を築くための戦略的信頼」が高いことが確認された。

子育ての心理との関連について分析した結果、「父親は絆を築くための戦略的信頼」、「特定の人に対する信頼」との間に関連がみられた。しかし、「社会一般の人に対する信頼」とは関連が見られなかった。母親の場合は、他者への信頼の3つの下位尺度すべてに関連性を示したが、基本的属性等の影響を調整すると、「絆を築くための戦略的信頼」との関連性は示さなくなった。

結論 コミュニティーにおける人々の他者への信頼は父親と母親のコミュニティーとのつきあい方（関係性）の違いを反映していたと考えられる。

他者への信頼が高いほど、子育てに楽しみを感じ、そして日常の生活と子育てとの間に生じる育児の疲れを和らげることに関連があった。しかし、父親には「社会一般の人に対する信頼」に関連がみられなかったように、他者への信頼と子育てとの関連には父母の特性に違いがあることが明らかになった。

Key words : 信頼, 育児, コミュニティー, ソーシャル・サポート, ロジスティック回帰分析

I 諸 言

親世代と既婚の子ども世代との同居率は1980年では52.5%であったが2005年には23.3%となり核家族化が急速に進んでいる¹⁾。また、子育て世代は子どもを介して地域とのつながりを比較的持ちやすい世

代であると思われるが、国民生活白書¹⁾によると、子どもを通じた付き合いは2000年(45.7%)から2007年(32.9%)に減少しており、現代における地域社会の変化が容易に想像できる。個人にとっても、他人の関与を歓迎しない思考や、適度に距離を置いた緩やかな付き合いを望む人が増えており¹⁾、子どもを持つ親同士の情報交換の場としての「公園デビュー」という言葉も聞かれなくなった。現代の地域では、どんな人がいるのか、お互いに分からない、分かつてもししないのが実情である。たとえ相談できる相手ができても、人の移動が激しくなった

* 北海道大学大学院保健科学研究院

^{2*} 琉球大学医学部保健学科
 連絡先：〒060-0812 北海道札幌市北区北12条西5丁目
 北海道大学大学院保健科学研究院 本田 光

現在では、転勤などで引っ越してしまうことも多く、友達づくりのために子育てサークルは切望するが、自らリーダーとなり、責任を負う者は少ない。行政は、これまでの保健センターにおける保健相談だけでなく、子育て支援センターの設置など、以前の「公園的」な交流の場を公的責任において提供しなくてはならない状況にある。

このように核家族化による親族とのつながりの希薄化、地域の人との顔の見える関係性の消失によって、これまでコミュニティが果たしてきたサポート力や監視力²⁾も弱まっている。児童虐待の悲劇のニュースは今や珍しい話題ではなくなった。

大木³⁾は、このような状況を関係性喪失の時代と呼んでいる。このような現代社会においてどのようにコミュニティからの支援を得て、自分の健康を維持し、子どもや家族のための環境を整えていくことができるのか、関係性喪失の現代社会においてコミュニティとの関係性を築く力が問われている。

これまで他者との関係と健康との関連については、ソーシャル・サポート研究が多く蓄積されてきた。

例えば、ソーシャル・サポートとしての祖父母からの支援が育児期の親の心理的健康に重要であること^{4,5)}、乳幼児期の子育てにおける母親の抑うつには手段的・情緒的サポートの有無が関連していることが報告されている⁶⁾。

しかし、このソーシャル・サポートを構築するためには、自ら他者へアプローチする行動と、自分に向けられた支援を受け入れることができる能力の双方が人間性の潜在的で重要な能力であると筆者は考えている。そこで、この能力の基盤として「どのような他者に対してどの程度信頼することができるか(他人からどう思われているかではない)」という他者への信頼に注目して、これを測定する尺度を開発した⁷⁾。

本研究では、3歳児を持つ親の子育てと筆者が開発した他者への信頼との関連性について分析する。

特に最近では、父親の育児参加を促すことを意図した研究報告がみられている^{8~10)}ことから本研究では、他者への信頼の側面から父親と母親における特性の違いを明らかにすることを目的とした。このことによって新たな子育て支援対策の再構築へ向け、父母それぞれに有効なコミュニティ・サポートを構築するための示唆を得たいと考えている。

II コミュニティーの定義

コミュニティとは、地域社会で共に生きようと同志をもつ集団であり、単に人々が居住する一つ

の地域社会を指すのではなく、そこに集う人々の集団性と協同性が条件として加わるもの¹¹⁾である。コミュニティには地理的な基盤のあるもの、あるいは同じ目的意識を持ったインターネット上の人々の集まり、国籍や宗教を同じにする人々の集団、またはそれらが重複しているコミュニティもある¹²⁾。コミュニティを得ることは「温かく、居心地がよい快適な場所」を得ることであるが、同時にコミュニティにおける規範・規則に従うことで自由を失う¹³⁾とも言われている。

本研究では、以上の先行研究における定義・概念を参考に、必ずしも地域に帰属せずとも上記の概念が含まれる職場仲間やPTAなどの集団、子育てグループのような目的志向型の集団、地縁的友人・知人、親族などの集団も広義に含めて、コミュニティと定義した。

III 方 法

1. 対象者

沖縄県A市において実施される3歳児健康診査対象児の保護者766人(男性364人,女性402人)を対象とした。

2. 調査方法

期間は平成20年6月から12月である。調査票は、A市健康増進課の協力を得て、健診の約2週間前に郵送される予診票とともに同封して配布した。対象者には、自宅で記入してもらい健診当日、会場受付において提出してもらった。その際、受付担当事務職員によって健診会場の受付で同時に提出された3歳児健康診査受診票(予診票)と同じIDを付して回収ボックスに投函してもらった。その後、ID番号を照合して研究者が子どもの基本的属性等のデータを収集した。

3. 倫理的配慮

本研究の調査に先立ちA市健康増進課長、事務担当者および保健師に研究目的、方法、研究意義、本調査は匿名調査であり個人を特定することはできず、個人への保健指導等の資料としては使用できないことなどの守秘義務について説明し、研究への協力に承諾を得た。調査対象者には、調査票配布の際に、調査の趣旨、調査票は匿名であるが、3歳児健康診査受診票(予診票)と照合して子どもの属性等のデータも研究に用いること、調査票はコード化され統計的に処理されるため個人は特定されないこと、参加は自由意志によるものであり、断っても健診にはなんら影響は無いことを別紙の文書にて説明して、調査票の提出をもって同意を得た。また、データは個人的情報が漏洩しないよう厳重に管理し

た。

なお本研究は、琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認（平成20年5月12日）を得て行った。

4. 調査内容

調査票は、基本的属性、他者への信頼を測定する尺度、育児に対する心理から構成されている。

1) 親の基本的属性に関する項目

基本的属性には性別、年齢、家族構成、出身地、就業の有無、就業時間、休日日数、子どもと接する時間、最終学歴が含まれる。

2) 子どもの基本的属性に関する項目

子どもの基本的属性等を把握するために、3歳児健康診査受診票から性別、きょうだいの数、最年長児の年齢、保育所の利用についてのデータを収集した。

3) 他者への信頼を測定する尺度

近年、地域におけるソーシャルキャピタル（社会資本）と呼ばれる概念と健康との関連性に関心が向けられている。ソーシャルキャピタルは、「社会的信頼」、「互酬性の規範」、「ネットワーク」を枠組み¹⁴⁾とする仮説的概念が広く受け入れられている。特に信頼の概念については、経済学の立場¹⁵⁾や心理学の立場¹⁶⁾によっても盛んに議論されている。海外ではUslaner¹⁷⁾が、自身の旅の経験から、無人販売システムが成立する地域の特質について考察し、その基盤に人々の間における信頼が影響していると考え、研究を進展させている。筆者はこのUslaner¹⁷⁾の信頼の概念を参考に尺度を開発した。

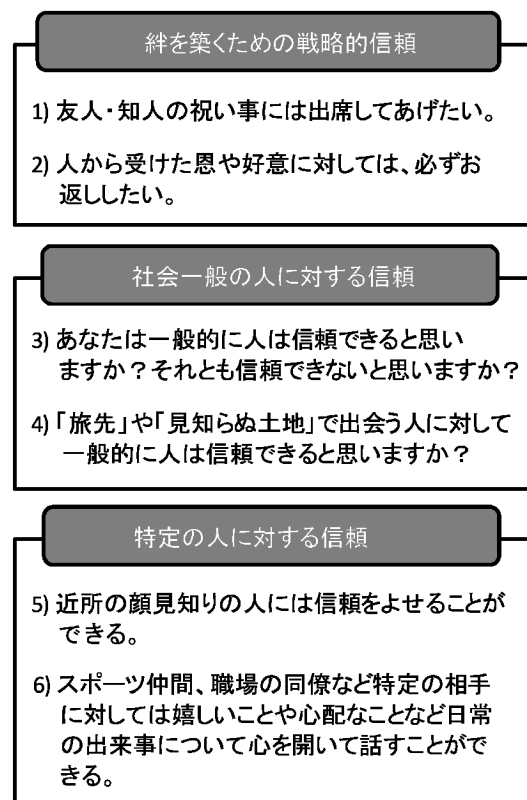
他者への信頼を測定する尺度⁷⁾は3つの下位尺度で構成され、さらに各下位尺度は2項目で構成される（図1）。各項目は1～9点で評価されるため、下位尺度得点は理論上2～18点の分布をとる。

尺度の内的整合性 α 係数は父親0.737、母親0.774であり、その信頼性と妥当性は理論的検証により担保されている。

4) 子育てに対する心理

子育てに対する心理は、「子育てはどうか？（楽しい・どちらともいえない・大変）」、「育児は疲れが多い（肉体的・精神的・いいえ）」で構成され、子育ての喜びと育児疲れについて率直な気持ちを尋ねている。また、子育ては大変だけれど楽しいという場合には“大変”と“楽しい”の両方への回答を可能としている。同様に、肉体的にも精神的にも疲れている場合には、その両方に回答することができる。この2項目は3歳児健康診査受診票の問診に記載されている心理面を把握するための項目である。保健指導での活用だけでなく、調査研究への活用の発展を期待して採用した。

図1 他者への信頼を測定する尺度の下位尺度と項目



5. 分析方法

分析を開始するにあたって、他者への信頼と子育てに対する心理の項目に欠損のあるケースは分析から除外した。

次に子育てに対する心理の変数は、度数に偏りが確認されたため、「子育てはどうか？」の項目は、“楽しい”または、大変だけれど“楽しい”と回答した場合に1点とし、それ以外は0点を配した。また、「育児の疲れが多い」の項目は“肉体的”または“精神的”あるいはその両方にありの場合に1点とし、ない場合に0点を配した。

分析は、父母それぞれの集団ごとに行い、夫婦のペアリングは行っていない。

まず、他者への信頼の下位尺度得点の中央値を父親と母親ごとに求め、以降の分析はこの下位尺度得点中央値を用いて行った。他者への信頼に対する父母の基本的属性等の影響を分析するために Mann-Whitney test または Kruskal-Wallis test によって差の検定を行った。

他者への信頼と子育てに対する心理の変数との関連は、他者への信頼の下位尺度を説明変数、育児に対する心理を目的変数とするロジスティック回帰分析を行った。なお、父母の基本的属性の分析結果より、親の出身地、就業の有無（母）、子どもの性別は、他者への信頼に対する影響が確認されたので調

表1 対象の概要

	父 親			母 親		
	n	mean±SD	%	n	mean±SD	%
年齢	134	34.3±6.5		195	32.3±5.2	
20歳代	30		22.4	63		32.3
30歳代	83		61.9	116		59.5
40歳代以上	21		15.7	16		8.2
出身地						
A市内	91		67.9	129		66.2
A市以外の県内	25		18.7	33		16.9
県外	18		13.4	33		16.9
就業の有無						
就業あり	130		97.0	105		53.8
就業なし	4		3.0	90		46.2
就業時間	130	9.1±3.4		105	7.4±1.9	
休日日数	129	1.4±0.6		105	2.0±1.0	
子どもと接する時間	133	4.4±2.3		192	9.3±6.5	
最終学歴						
小中学校	11		8.3	6		3.1
高校・高等学校	51		38.3	79		40.9
専修学校・短期大学	39		29.3	84		43.5
大学・大学院	32		24.1	24		12.4
家族の状況 ^{※1}	n	mean±SD				%
家族形態						
1世帯	115					85.8
2世帯以上	19					14.2
子どもの人数	203	2.3±1.1				
1人	46					22.7
2人	85					41.9
3人	47					23.2
4人	17					8.4
5人	7					3.4
7人	1					0.5
最年長児の年齢	203	5.6±3.4				
子どもの状況	n	mean±SD				%
性別						
男児	97					47.8
女児	106					52.2
月齢(カ月)	203	40.8±0.9				
保育所の利用						
あり	168					83.2
なし	34					16.8

※1 父母のどちらか一方からしか調査票が提出されなかったケースも含む。

整変数とした。各検定における有意水準は5%とした。統計ソフトは、SPSS Ver.16.0 for windows を用いた。

IV 結 果

調査票は、338件(父親141件,母親197件)回収された(有効回収率44.1%)。その上で、本研究の分析に必要な、他者への信頼と育児に対する心理的変数の項目に欠損のあった調査票を除き、最終的に329件(父親134件,母親195件)を分析対象とした。なお、本研究期間における健診受診率は69.4%であった。

1. 対象者の概要

父親の年齢は父母ともに30歳代が最も多かった。父親67.9%,母親66.2%がA市の出身であった。父親の97.0%は就業しており、母親の就業率は53.8%であった。子どもの人数は平均2.3(±1.1)人であった。最年長児の平均年齢は5.6(±3.4)歳で、これは親の育児経験年数でもある(表1)。

次に親の子育てに対する心理について、子育てが楽しいと感じているのは父親72.3%,母親68.2%で

表2 親の子育てに対する心理の状況

	父 親		母 親	
	n	%	n	%
	134		195	
子育ては				
楽しい	96	71.6	110	56.4
大変だけど楽しい	1	0.7	23	11.8
どちらでもない	35	26.1	31	15.9
大変	2	1.5	31	15.9
育児の疲れ				
ある	73	54.5	109	55.9
※1				
肉体的	27	20.1	63	32.3
精神的	30	22.4	25	12.8
両方	16	11.9	21	10.8
ない	61	45.5	86	44.1

※1 育児の疲れ「ある」の再掲

表3 他者への信頼の下位尺度得点中央値

	父 親				母 親				P
	n	median	(25, 75)	min-max	n	median	(25, 75)	min-max	
絆を築くための戦略的信頼		16.0	(14.0, 18.0)	2.0-18.0		16.0	(14.0, 18.0)	7.0-18.0	
社会一般の人に対する信頼	134	10.0	(9.0, 12.0)	2.0-18.0	195	10.0	(8.0, 13.0)	2.0-18.0	
特定の人に対する信頼		12.0	(10.0, 15.0)	2.0-18.0		14.0	(12.0, 16.0)	2.0-18.0	**

Mann-Whitney test * P<0.05, ** P<0.01

あった。育児の疲れに関しては、父親54.5%，母親55.9%が肉体的あるいは精神的な疲れを感じていた(表2)。

2. 他者への信頼に対する基本的属性等の影響

他者への信頼の下位尺度得点中央値について、父母別に(表3)に示す。「特定の人に対する信頼」については母親の方が高く、統計的有意差が確認された。

次に、他者への信頼に対する父母の基本的属性等の影響を分析した結果、統計的有意差が見られたのは、出身地、母親の就業の有無、子どもの性別であった(表4)。

出身地による影響は、父母双方の「絆を築くための戦略的信頼」においてA市内出身者の得点が高いことが確認された。就業の有無による影響は、母親において就業している群で「絆を築くための戦略的信頼」と「特定の人に対する信頼」が高いことが確認された。なお、父親は97%が就業しており、度数に偏りが著しいため、分析対象としなかった。子どもの性別による影響は、母親において子どもが男児である場合に、女児である場合と比べて「絆を築くための戦略的信頼」が有意に高いことが確認された。なお、子どもの性別と母親の就業の有無の間には有意な関連性は見られなかった。

3. 他者への信頼と子育てに対する心理との関連

父親の場合、「子育ては楽しい」と「育児の疲れ」に関連があったのは、「絆を築くための戦略的信頼」と「特定の人に対する信頼」であった。母親の場合は、「絆を築くための戦略的信頼」、「社会一般の人に対する信頼」、「特定の人に対する信頼」のすべてに関連が確認された(表5)。

次に、これらの変数をロジスティック回帰分析に投入して、その関連性を検討した(表6)。

父親の「子育ては楽しい」は「絆を築くための戦略的信頼」(Odds Ratio(OR)=1.33, 95%Confidence interval(CI): 1.14-1.55), 「特定の人に対する信頼」(OR=1.20, 95%CI: 1.07-1.34)に関連がみられ、「育児の疲れ」も同様に「絆を築くための戦略的信頼」(OR=0.83, 95%CI: 0.73-0.96), 「特定の人に対する信頼」(OR=0.79, 95%CI: 0.70-0.89)との間に関連性が確認されたが、「社会一般の人に対する信頼」では有効な回帰モデルが得られなかった(モデル1)。この結果は調整変数を投入しても同様であった(モデル2)。つまり、父親が子育てに楽しみを見出し、育児の疲れをマネジメントすることに他者との絆を戦略的に築く信頼と、同僚や仲間などの特定の人に対する信頼が影響していた。

母親の場合は、「子育ては楽しい」および「育児

表4 他者への信頼に対する基本的属性等の影響

項目	絆を築くための戦略的信頼			社会一般の人に対する信頼			特定の人に対する信頼					
	父 n	父 median (25, 75)	母 n	母 median (25, 75)	父 n	父 median (25, 75)	母 n	母 median (25, 75)	父 n	父 median (25, 75)	母 n	母 median (25, 75)
出身地												
市内	91	16.0 (14.0, 18.0)	129	17.0 (15.0, 18.0)	91	10.0 (8.0, 12.0)	129	10.0 (9.0, 12.0)	91	12.0 (10.0, 15.0)	129	14.0 (11.5, 16.0)
県内 ^{※1}	25	15.0 (13.0, 17.5) *	33	16.0 (14.0, 17.0) *	25	11.0 (8.5, 12.0)	33	11.0 (8.0, 13.0)	25	13.0 (11.0, 15.0)	33	14.0 (13.0, 16.0)
県外	18	14.0 (12.0, 17.3)	33	16.0 (13.5, 18.0)	18	11.0 (10.0, 13.0)	33	12.0 (7.0, 14.0)	18	10.5 (9.5, 16.0)	33	14.0 (11.0, 16.0)
就業												
あり			105	17.0 (15.0, 18.0) **			105	11.0 (9.0, 13.0)			105	15.0 (12.0, 16.5) **
なし			90	16.0 (14.0, 18.0)			90	10.0 (7.8, 12.3)			90	13.0 (10.0, 16.0)
子どもの性別												
男児	62	16.5 (14.0, 18.0)	93	17.0 (15.0, 18.0) **	62	10.0 (8.0, 12.0)	93	10.0 (8.0, 14.0)	62	12.0 (10.0, 15.0)	93	14.0 (12.0, 16.0)
女児	72	15.0 (14.0, 17.8)	102	16.0 (14.0, 17.0) **	72	10.0 (9.0, 13.0)	102	11.0 (8.0, 13.0)	72	12.5 (10.0, 15.0)	102	14.0 (11.0, 16.0)

Kruskal-Wallis test or Mann-Whitney test * P<0.05, ** P<0.01

※1 A市内を除く県内出身者

表5 子育てに対する心理と信頼との関連

	n	絆を築くための戦略的信頼		社会一般の人に対する信頼		特定の人に対する信頼	
		median	(25, 75)	median	(25, 75)	median	(25, 75)
父親	子育ては楽しい	97	14.0 (14.0, 18.0)	10.0 (9.0, 12.5)	13.0 (10.5, 15.0)]**	
	—※ ¹	37	17.0 (12.0, 16.0)	10.0 (8.0, 12.0)	10.0 (8.0, 14.0)		
	育児の疲れあり	73	15.0 (13.0, 17.0)	10.0 (8.0, 12.0)	11.0 (9.0, 14.0)]**	
	なし	61	17.0 (14.0, 18.0)	10.0 (10.0, 12.5)	14.0 (11.0, 16.0)		
母親	子育ては楽しい	133	17.0 (15.0, 18.0)	11.0 (9.0, 14.0)	15.0 (12.0, 16.0)]**	
	—※ ¹	62	16.0 (14.0, 17.0)	10.0 (6.0, 12.0)	13.0 (10.0, 15.0)		
	育児の疲れあり	109	16.0 (14.0, 17.5)	10.0 (8.0, 12.0)	14.0 (11.0, 16.0)]**	
	なし	86	17.0 (16.0, 18.0)	12.0 (9.0, 14.0)	15.0 (12.0, 17.0)		

Mann-Whitney test * $P < 0.05$, ** $P < 0.01$ ※¹ 子育ては「大変」または「どちらでもない」にのみ回答した者。「大変」だけれど「楽しい」と両方に回答した者は「楽しい」を含む。

表6 子育てに対する心理と信頼との関連 (ロジスティック回帰分析の結果)

目的変数	説明変数	モデル1		モデル2		
		OR	95%CI	AOR	95%CI	
父親	子育ては楽しい	絆を築くための戦略的信頼	1.33**	1.14-1.55	1.30**	1.12-1.51
		社会一般の人に対する信頼	—	—	—	—
		特定の人に対する信頼	1.20**	1.07-1.34	1.21**	1.08-1.35
育児の疲れ		絆を築くための戦略的信頼	0.83**	0.73-0.96	0.86*	0.75-0.99
		社会一般の人に対する信頼	—	—	—	—
		特定の人に対する信頼	0.79**	0.70-0.89	0.78**	0.69-0.89
母親	子育ては楽しい	絆を築くための戦略的信頼	1.14*	1.01-1.29	—	—
		社会一般の人に対する信頼	1.11*	1.02-1.20	1.11*	1.02-1.20
		特定の人に対する信頼	1.12*	1.03-1.22	1.11*	1.01-1.21
育児の疲れ		絆を築くための戦略的信頼	0.86*	0.75-0.98	—	—
		社会一般の人に対する信頼	0.91*	0.84-0.99	0.91*	0.84-0.99
		特定の人に対する信頼	0.87**	0.79-0.95	0.87**	0.79-0.96

多重ロジスティック回帰分析：有効なモデルのみ表示 (モデル係数のオムニバス検定 $P < 0.05$)
(Hosmer と Lemeshow の検定 $P \geq 0.05$)wald 検定 * $P < 0.05$ ** $P < 0.01$

分析方法；強制投入法

OR : Odds Ratio

AOR (モデル2) : Adjusted Odds Ratio 出身地, 就業の有無 (母), 子どもの性別

CI : Confidence interval

の疲れ」の双方に対して、「他者への信頼」の3つの下位尺度すべてが関連性を示した(モデル1)が、基本的属性等を調整した後は、「子育ては楽しい」では、「社会一般の人に対する信頼」(Adjusted Odds Ratio(AOR) = 1.11, 95%CI: 1.02-1.20)、「特定の人に対する信頼」(AOR = 1.11, 95%CI: 1.01-1.21)が関連しており、「育児の疲れ」に対しても同様に、「社会一般の人に対する信頼」(AOR = 0.91, 95%CI: 0.84-0.99)、「特定の人に対する信頼」

(AOR = 0.87, 95%CI: 0.79-0.96)が関連していた(モデル2)。

V 考 察

1. 対象集団の特徴

平成22年版子ども・子育て白書¹⁸⁾によると、日本の平均初婚年齢は夫30.2歳、妻28.5歳である。また女性の出産年齢の平均は第1子が29.5歳、第2子が31.6歳である。母親の約65%が無職であり、男性の

労働時間は週35-59時間が7割を占めている。これらのことより、本研究の対象集団も全国と同様の傾向にあった。

しかし、合計特殊出生率は全国1.37であるのに対して調査地である沖縄県は1.78と出生率の高い地域である。A市においても一世帯当たりの子どもの数は2子(41.9%)が最も多く、3子(23.2%)も多い。A市は全国の傾向と同様に核家族化が進み85.8%と高いが、親族も近距離に住んでいることが多く、日常的なサポートが得られやすい地域特性もある。またA市は離島県としての特徴もあって、市内の出身者が対象集団に占める割合は高かった。以上のことを考慮に入れながら、次に研究結果の考察を行う。

2. 他者への信頼とコミュニティとの関係

親の出身地の違いによる分析では、A市内出身者の父母双方の「絆を築くための戦略的信頼」が他地域出身者よりも高い結果であった。本調査地は一般に郷土愛が強く、地域行事や敬老の祝いなど地域を基盤とした住民のつながりが強い地域だと言われている¹⁹⁾。さらにA市では出生・入学・卒業・成人・敬老祝いなどは家族内だけでなく職場の仲間や友人知人も招いて行るのが慣例となっている²⁰⁾ことから、A市内出身者は、親族や学生時代からの友人とのつきあいが継続されていると思われる。そのため「絆を築くための戦略的信頼」の得点が高く、こうした地域性を反映した結果であると推察できる。

また、母親は、就業の有無によって「絆を築くための戦略的信頼」と「特定の人に対する信頼」に関連がみられた。就業によって権威と階層を重視する垂直的な組織(会社)に属することによって、専業主婦とは違う特性を獲得していると考えられる。

子どもの性別では、子どもが男児である場合に母親の「絆を築くための戦略的信頼」が高いことが示された。本結果より、母親は子どもと接する時間が圧倒的に多く、そのため子どもを介したコミュニティとの関係性の影響を受けやすいと考えられる。本調査地は、祭祀承継を意味する先祖の位牌は長男が継ぐ徹底した男系血族主義だと言われている。また祭祀承継とともに財産相続を伴うことが慣習的である²¹⁾ことから、男児は親族からも特に喜ばれ大切にされ、お祝いはさらに盛大である。母親の「絆を築くための戦略的信頼」は、この文化を共有するコミュニティとのつきあいを反映していると考えられる。

このように、子育て期における父母の異なる背景や集団への帰属の違いによって他者への信頼に差が生じたことは、つまりコミュニティとのつきあい

方(関係性)の違いであり、他者への信頼はその違いを反映していたと考えられる。

3. 他者への信頼における父母の特性の違い

子育てに対する心理に影響する他者への信頼の低位尺度には、父親と母親の特性に違いがみられた。つまり父親か母親かによってコミュニティとのつきあい方(関係性)が違うことが明らかになった。父親の相談相手は母親に比べて少なく、職場の友人や上司に相談している点が特徴的であるという報告²²⁾もあり、父親のコミュニティとのつきあい方は戦略的であり、そうして出会った特定の人との信頼を深めることによって、子育てサポートを得ていると推察される。一方、母親には「絆を築くための戦略的信頼」ではなく、「社会一般の人に対する信頼」に関連がみられたことが特徴的であった。信頼は特定の相手との「関係強化」の側面のみでなく、人々を固定した関係から解放し、新しい相手との自発的な関係の形成に向かわせるという「関係拡張」の側面もある¹⁶⁾という。筆者の保健師としての経験を顧みても、子育て支援センターや子育て支援のための各種事業に子どもと一緒に来所するのは母親が圧倒的に多かった。母親にとって「社会一般の人に対する信頼」は、そうした常に新たな出会いに満ちた状況を生き抜く(関係拡張)ことに関連し、さらに「特定の人に対する信頼」によって、自らのコミュニティを形成(関係強化)する。こうして自ら構築したネットワークによって子育てサポートを得ていると推察される。

佐藤²³⁾の調査では、35~44歳の女性の約4割が友人など家族以外の人との交流に生きがいを感じているのに対して、男性は1割に満たなく、代わりに仕事に生きがいを見出している割合が約6割であったと報告されている。このことから父親は就業に関係する人のおつきあいや職場を共有するなど固定化された関係性の中でコミュニティを得ているが、母親は、より広く自らのコミュニティを開拓しており、その力として「社会一般の人に対する信頼」が重要な能力であったと理解できる。

これらの結果より父母の特性の違いを考慮すると、父親に関しては、子育て支援センターなどのように日々自発的に不特定多数の人との交流を期待される場(子育て支援事業)は苦手であり、それよりもスポーツチームや団体活動のようにある程度固定化された関係性の中で人との交流を深められるようなサポートが有効であると考えられる。父親のコミュニティ・サポートはこれまでの人生経験や人脈に大きく影響されることが推察されるため、保健師が「相談できる友人がいますか?」と尋ねるのは母

親とともに、父親に対しても必要である。

また、就業している母親は「絆を築くための戦略的信頼」と「特定の人に対する信頼」が高く、ロジスティック回帰分析においても就業の有無を調整しなかった場合には、父親と同様に「絆を築くための戦略的信頼」との関連性も示された。伊藤らの研究²⁴⁾では、女性の就業による職場満足度の高まりは、男性と同様に主観的幸福感に寄与すると報告されている。就業によって専業主婦のそれとは違う形態のコミュニティーを獲得できることは、より多様な子育てサポートを得ることに貢献しているのだろう。

VI 本研究の限界と今後の課題

他者への信頼が高いほど、子育てに楽しみを感じ、そして日常生活と子育てとの間に生じる育児の疲れを和らげることに関連があることが明らかになった。しかし、他者への信頼そのものの効果なのか、他者への信頼が望ましいソーシャル・サポート・ネットワークの構築に作用した結果なのかについては、本研究で考察するには不十分である。

また、信頼度の決定要因の1つとして社会的慣習を含む環境要因が言われている¹⁵⁾。地域の影響は親の貧困や学歴等の要素を調整してもなお地域の文化的脈絡を経て、その子どもの健康問題に影響しているという報告²⁵⁾もあり、コミュニティーにおける他者への信頼においても、地域性を理解することは重要である。本研究結果は一地域において得られた結果であり、その地域性を反映していたことは評価できるが、研究結果の普遍化へ向けては限界でもある。

次に本研究のフィールドとした3歳児健診の受診率は約69%と低く、そのため調査票の回収率も44%であった。また母親のみが調査票に回答して父親からは回答が得られなかったケースも多くあった。

今回は調査に協力しなかった集団については情報を得ていないため、対象集団が十分に母集団を反映しているかについて考慮することには限界がある。

以上のことは本研究の限界でもあり、今後の課題としたい。

VII 結 語

3歳児を持つ親における父母の異なる背景や集団への帰属の違いによって、他者への信頼に差が見られた。このことにより、他者への信頼はコミュニティーとのつきあい方(関係性)を反映していたと考えられる。

さらに、他者への信頼と子育てに対する心理との関連には父親と母親の特性に違いがあることが明ら

かになった。しかし、母親は就業の有無を調整しなかった場合には下位尺度の「絆を築くための戦略的信頼」も関連を示したことにより、職業を有している母親のコミュニティー・サポート・ネットワークはより多様で豊かであると推察される。また父親に関しては、子育て支援センターなどのように日々自発的に不特定多数の人との交流を期待される場(子育て支援事業)よりも、戦略的に特定の人との交流を深められるような支援策や情報提供を検討する必要性が考えられた。

本研究を実施するにあたりご協力いただいたA市民および健康増進課の皆様、プレテストにご協力いただいたB市4保育所の皆様に深く感謝いたします。

なお、本研究は平成20年度笹川科学研究助成により実施しました。

(受付 2011. 2.15)
(採用 2012. 3.13)

文 献

- 1) 内閣府. 平成19年版国民生活白書: つながりが築く豊かな国民生活. 東京: 時事画報社, 2007; 1-118.
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/10_pdf/01_honpen/index.html (2012年4月26日アクセス可能)
- 2) Rogoff B. 文化的営みとしての発達: 個人, 世代, コミュニティ [The Cultural Nature of Human Development] (當眞千賀子, 訳). 東京: 新曜社, 2006; 129-192.
- 3) 大木 昌. 関係性喪失の時代: 壊れてゆく日本と世界. 東京: 勉誠出版, 2005; 44-58.
- 4) Fagan J, Bernd E, Whiteman V. Adolescent fathers' parenting stress, social support, and involvement with infants. *J Res Adolesc* 2007; 17(1): 1-22.
- 5) Sepa A, Frodi A, Ludvigsson J. Psychosocial correlates of parenting stress, lack of support and lack of confidence/security. *Scand J Psychol* 2004; 45(2): 169-179.
- 6) 宮地文子, 山下美根子, 渡辺好恵, 他. 初妊婦及び3~4ヵ月児・保育園児の母親の抑うつと関連要因. *日本地域看護学会誌* 2001; 3(1): 115-122.
- 7) 本田 光, 宇座美代子. コミュニティーにおける人々の他者への信頼を測定するための尺度開発と理論的検証. *日本地域看護学会誌* 2010; 13(1): 37-43.
- 8) 塩澤真由美, 石田貞代, 萩原結花. 出産後早期における父親の育児家事実施意欲に関する研究: 母親の期待・性役割態度・出産準備教育との関連. *母性衛生* 2007; 47(4): 582-589.
- 9) 五十嵐久人, 飯島純夫. 父親の育児参加への意識と育児行動. *山梨医科大学紀要* 2001; 18: 89-93.
- 10) 菊池ふみ, 柏木恵子. 父親の育児: 育児休業をとった父親たち. *文京学院大学人間学部研究紀要* 2007; 9(1): 189-207.
- 11) 岩堂美智子, 松島恭子, 田村雅幸. なぜ今“コミュ

- ニティ・アプローチ”なのか. 岩堂美智子, 松島恭子, 編. コミュニティ臨床心理学: 共同性の生涯発達. 大阪: 創元社, 2001; 3-19.
- 12) 斎藤恵美子. いま, 改めて「コミュニティ」を考える 地域診断の過程でのコミュニティの捉え方. 保健師ジャーナル 2007; 63(5): 392-395.
- 13) Bauman Z. コミュニティ: 安全と自由の戦場 [Community: Seeking Safety in an Insecure World] (奥井智之, 訳). 東京: 筑摩書房, 2008; 7-13.
- 14) 内閣府国民生活局, 編. ソーシャル・キャピタル: 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて. 東京: 国立印刷局, 2003.
https://www.npo-homepage.go.jp/data/report9_1.html
(2012年4月26日アクセス可能)
- 15) 荒井一博. 信頼と自由. 東京: 勁草書房, 2006; 21-64.
- 16) 山岸俊男. 信頼の構造: ところと社会の進化ゲーム. 東京: 東京大学出版会, 1998; 9-53.
- 17) Uslaner ME. The Moral Foundations of Trust. Cambridge: Cambridge University Press, 2002; 14-50.
- 18) 内閣府. 平成22年版子ども・子育て白書. 東京: 佐伯印刷, 2010; 2-42.
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/whitepaper/w-2010/22pdfhonpen/22honpen.html> (2012年4月26日アクセス可能)
- 19) 河田聡子, 与那嶺尚子, 上田礼子. 文化と子育て: 沖縄県本島南部一地区における県外出身者の場合. 沖縄の小児保健 2004; 31: 7-15.
- 20) 本田 光, 前川美奈代, 砂川貴美, 他. 沖縄県離島における県外出身保健師の地域把握方法: 実践の入り口としての生活習慣の年表作成. 日本地域看護学会誌 2007; 10(1): 100-105.
- 21) 新城将孝. 沖縄におけるトートナー (祭祀財産継承) 問題について. 沖縄大学法経学部紀要 2009; 12: 71-76.
- 22) 恒次欽也, 川井 尚, 庄司順一, 他. 育児における父親の役割に関する調査研究: 父親・母親を対象として. 平成5年度厚生省心身障害研究報告書 少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究 (主任研究者 日暮 眞) 1993; 121-130.
- 23) 佐藤眞一. 団塊世代の退職と生きがい. 日本労働研究雑誌 2006; 550: 83-93.
- 24) 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子. 既婚者の心理的健康に及ぼす結婚生活と職業生活の影響. 心理学研究 2004; 75(5): 435-441.
- 25) Kalf AC, Kroes M, Vles JS, et al. Neighbourhood level and individual level SES effects on child problem behaviour: a multilevel analysis. J Epidemiol Community Health 2001; 55(4): 246-250.
-

Relationship between personal trust and parental feelings of parents of children
aged 3 years
Differences between the characteristics of fathers and mothers

Hikaru HONDA* and Miyoko UZA^{2*}

Key words : trust, parenting, community, social support, logistic regression analysis

Objectives In modern society, which is said to lack human relationships, an individual's personal ability to build relationships has gained great importance. The purpose of this study was to define the relationship between the parental feelings of parents of children aged 3 years and a personal trust (PT) scale developed by the author. We also clarified the differences between fathers and mothers with regard to PT.

Methods The study sample comprised 329 parents (134 fathers, 195 mothers) of children who underwent the health examination for children aged 3 years in 2008 in City A, Japan. We distributed questionnaire forms to the participants before the examination and collected the completed forms on the day of the health examination. The PT scale consists of 3 subscales: (1) strategic trust for building bonds (ST), (2) universal trust toward the general public (UT), and (3) trust toward specific persons (TS). First, subscale scores were summed up for fathers and mothers. Next, confounding factors were investigated by comparing the median subscale scores obtained for different demographic groups. Next, we performed logistic regression analysis to investigate the influence of PT, which was evaluated using the 3 subscales, on parental feelings.

Results We identified the confounding factors by comparing the median scores of each subscale for different demographic groups. A group of parents whose birthplace was City A had a high ST score. Next, compared to unemployed mothers, working mothers had higher ST and TS scores. Furthermore, mothers of male children had higher ST scores than those of female children.

We performed multivariate logistic regression analysis to investigate the psychological parental variables affected by PT calculated using each of the subscales. The results indicated the ST and TS scores affects parental feelings of fathers. However, the UT scores had no effect on parental feelings of fathers. In the case of mothers, the ST, TS, and UT scores affects parental feelings but the ST scores had no effect on parental feelings after adjusting for confounding factors.

Conclusion The PT scale reflected the socializing patterns of parents with various communities. We confirmed that PT promoted parental happiness and buffered parenting-related stress. However, there was a difference between the characteristics of fathers and mothers in relationships between parental feelings and PT. For example, in the case of fathers, there was no significant relationship between parental feelings and UT.

* Faculty of Health Sciences, HOKKAIDO UNIVERSITY

^{2*} Faculty of Medicine, School of Health Sciences, UNIVERSITY OF THE RYUKYUS